

第3回

授業づくり講座 教材研究会

香南市立野市東小学校

第6学年 「比例と反比例」授業者 今井 悠介 教諭

総合的な学習の時間に行う防災学習と関連付けての授業展開が提案されました。本単元で働かせる見方・考え方は、「ある数量についてそれが他のどのような数量と関係付けられるかを考えること」「伴って変わる二つの数量の変化や対応の特徴を考察すること」「二つの数量の関係の考察を日常生活に生かすこと」の3点です。その中で、本時は、人参の量(重さ)と人数は比例関係にあると捉え、比例の性質を使うと手際よく求められることを知り、日常生活に生かすことに焦点を絞りました。防災学習で、カレーの炊き出しを行うことを想定し、避難者に配るカレーに必要な人参の量(重さ)を比例の性質を使って求めることが本時の課題でした。

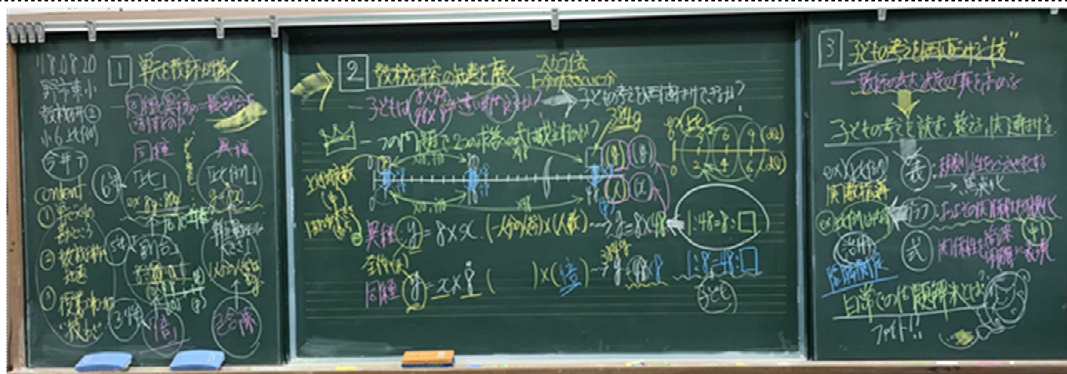


リフレクション

研究協議では、授業者が提案した付けるべき資質・能力や見方・考え方を働かせることができるのかどうかを模擬授業を見て、協議しました。本時の課題が日常生活の場面と合っているのか(カレーはだいたいの量で作るのではないか)、表を用いて考察させることが必要ではないのか、比と比例を統合して考えてもよいのではないのかといったような意見が出されました。

学力向上総括専門官より

- ①単元を教師が描く・・・比と比例は異種と同種という違いがあるが、それを融合して教えていいのかといったことまで教材研究をし、単元を自ら描ける力を養う必要がある。
- ②教材研究の知恵を磨く・・・子供から出された解をしっかりと価値付けする。(8×48、48×8。なぜどちらの式でもいいのかを納得させるための教材研究が必要である。)
- ③教師の意思決定の質を高める・・・教師の意思決定は授業中だけではなく、教材との関わりの中で何を教材として選択するのかにおいても必要である。教師の提示する教材場面と子供の生活場面とが乖離することが多く見られる傾向にあるので、生活場面に沿った場面設定が求められる。



◆参観者より

- 自分が考える教材研究とは全く異なる視座があることを知りました。前回のお話で、それまでの系統性を考える必要性を学びましたが、更に系統性の中にもまだ貫くものがあることを知りました。
- 比と比例の関係について、どのような違いがあるのか、そもそも違うものなのか今まで分かりませんでした。今日学ぶことができてよかったです。
- 子供の考えを読み取り、整えて関連付けていくことはとても大切ですが、教材研究の知恵を磨くことの難しさを感じました。具体的には、8×48、48×8の違いです。
- 8×48か48×8か日頃から疑問でした。それを曖昧にしてきたように思います。
- 教師がしっかり教材研究をして、単元構成をしていくようにしなければいけないと感じました。残りの単元をもう一度見直し、教材研究を深めたいと思います。

この教材研究会を生かした授業研究会は、11月29日(木)PMです！ぜひご参加ください。